

1 1 月 の 安 心 か わ ら 版



1 1 月の主な行事

1日 : 紅茶の日、計量記念日	15日 : 七五三、かまぼこの日
3日 : 文化の日	17日 : 将棋の日
7日 : 立冬	19日 : 鉄道電化の日
9日 : 119番の日、換気の日	23日 : 勤労感謝の日
11日 : 電池の日、靴下の日	28日 : 税関記念日



<取扱代理店>
 阪急阪神保険サービス株式会社
 〒530-0017
 大阪市北区角田町8-47
 阪急グランドビル16階
 TEL 06-6232-8897

今月のかわら版 : 1 「紅葉のしくみ」

日本における紅葉は、9月頃から北海道の大雪山を手始めに始まり、徐々に南下します。紅葉の見頃の推移を桜前線と対比して「紅葉前線」と呼びます。紅葉が始まってから完了するまでは約1か月かかり、見頃は開始後20~25日程度といわれています。

◆紅葉のしくみ
 紅葉と一口に言っても、赤くなる葉と黄色になる葉があり、紅葉のメカニズムがちがいます。葉に含まれる色素には緑色のクロロフィル(葉緑素)、黄色のカロチノイド(カロチン類とキサントフィル類)があります。量はクロロフィルがカロチノイドよりずっと多いので、黄色はめだたず葉は緑色に見えます。寒くなり、日照時間が短くなると、葉のはたらきが弱まり、クロロフィルが分解され、クロロフィルに隠されていたカロチノイドの色がめだって黄色になります。

紅葉する葉では、落葉前にカロチノイドが残るところは同じですが、それに加えて細胞中にあった糖分がアントシアンという赤色の色素に変わり、赤い紅葉になります。厳密には赤色に変わるのを「紅葉(こうよう)」、黄色に変わるのを「黄葉(おうよう)」

褐色に変わるのを「褐葉(かつよう)」と呼ぶようですが、同じ時期なのでともに「紅葉」として扱われることが多いようです。

◆美しく紅葉するための条件

同じ場所でも、毎年色の具合が違うのはなぜでしょうか。紅葉の良し悪しには3つの条件があります。

①日中の天気がいいこと…赤い色素となる糖分は光合成によって作られます。

②昼と夜の寒暖の差があること…夜の気温が高いと、昼間作った糖分を使って活動してしまうため、鮮やかな赤になりません。

③適度な雨や水分があること…乾燥しすぎると葉が紅葉する前に枯れてしまいます。

空気の澄んだ冷え込みの厳しい山あいでは、美しく紅葉するための条件がそろっています。京都も朝晩の冷え込みが厳しいことで有名ですね。

京都に紅葉スポットの多いのはこのためです。



今月のかわら版 : 2 「生物多様性の話」

環境に関する話のなかで、生物多様性という言葉をよく目にします。今月はこの生物多様性についてご案内します。

国際的な取組みとして、生物多様性条約が1992年5月の国連環境計画(UNEP)で採択され、1993年12月に発効されました。生物多様性条約では、生物多様性を「すべての生物の間に違いがあること」と定義し、多様性として次の3つがあるとしています。

1. 生態系の多様性…干潟、サンゴ礁、森林、湿原、河川など、それぞれの地域にいろいろなタイプの生態系があります。

2. 種の多様性…地球上には、動物、植物、菌類など約3,000万種の生物が存在していると考えられています。

3. 遺伝子の多様性…同じ種であっても、貝殻や模様の違いなど、個体の遺伝子レベルでは違いがあります。

日本国内においても、2008年6月に生物多様性基本法が公布、施行されました。生物多様性の保全および持続可能な利用についての基本原則を定めるとともに、生物多様性国家戦略を法律に基づく戦略として位置づけ、地方自治体による生物多様性地域戦略の策定を促しています。

生物多様性には、大きな経済的価値があります。2010年7月に発表された国連の研究調査「ビジネスのための生態系と生物多様性の経済学」において、生物多様性の損失による経済的影響は年間2兆~4.5兆ドルと試算されました。生物多様性の損失は、企業や消費者にとって、原材料調達の混乱、商品価格の上昇といった形で表れることが予想されます。

過去、生物多様性や生態系サービスの多くについては、そこに存在するのが当たり前のものでその価値が十分に評価、認識されてこなかったかもしれませんが、それが原因で、生物多様性の損失や生態系サービスの劣化を招くことになったのかもしれない。

私たちが生物多様性を保全するためにできることとして、「国連生物多様性の10年日本委員会」では、次の5つの行動を挙げています。まずは一歩踏み出してみましょう。

1. 地元でとれたものを食べ、旬のものを味わいます。

2. 生の自然を体験し、動物園・植物園などを訪ね、自然や生きものにふれます。

3. 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで伝えます。

4. 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に参加します。

5. エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います。